

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 12年9月

～7-9 月期の外需寄与度は前期比▲0.7%程度
のマイナスに

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

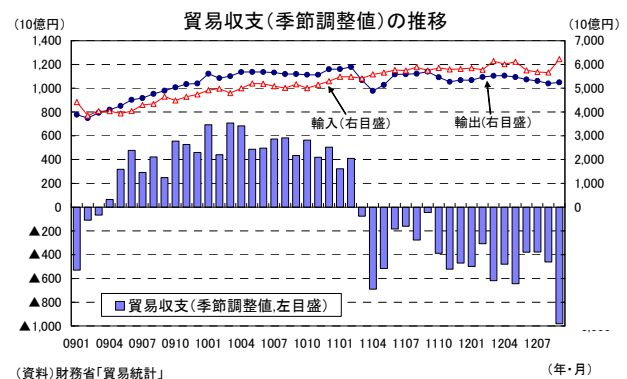
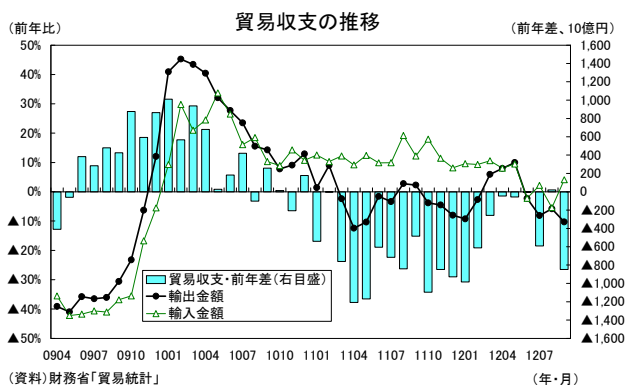
1. 貿易赤字(季節調整値)が震災以降で最大に

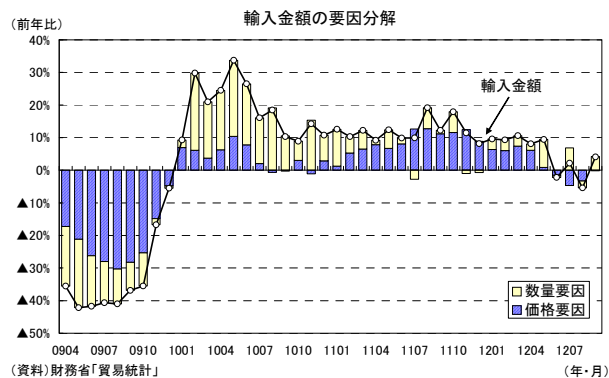
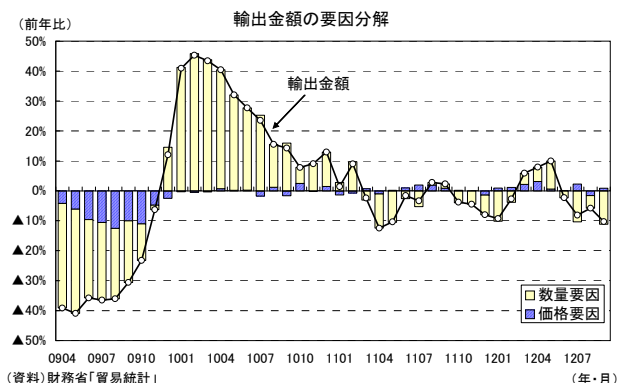
財務省が10月22日に公表した貿易統計によると、12年9月の貿易収支は▲5,586億円と3ヵ月連続の赤字となり、ほぼ事前の市場予想(QUICK集計:▲5,701億円、当社予想は▲6,592億円)通りの結果となった。輸出の減少幅が8月の前年比▲5.8%から同▲10.3%へと拡大する一方、輸入が前年比4.1%(8月:同▲5.4%)と2ヵ月ぶりに増加したため、貿易収支は前年に比べ大きく悪化した。

中国向け輸出は中国经济減速の影響からすでに弱い動きとなっていたが、9月はこれに対中関係悪化による影響が加わったことから、8月の前年比▲9.9%から同▲14.1%へと減少幅が拡大した。反日デモが激化したのは9月中旬以降であるため、10月は減少幅がさらに拡大する可能性があるだろう。

季節調整済の貿易収支は▲9,803億円と19ヵ月連続の赤字となり、8月の▲4,619億円から赤字幅が大きく拡大した。輸出が前月比0.9%と小幅な増加にとどまる一方、輸入が同10.0%と急増したことが貿易赤字の拡大に寄与した。貿易収支の赤字幅は東日本大震災直後である11年4月の▲6,906億円を大きく上回り最大となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲11.1%(8月:同▲4.2%)、輸出価格が前年比0.9%(8月:同▲1.6%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比4.2%(8月:同▲2.1%)、輸入価格が前年比▲0.1%(8月:同▲3.3%)であった。



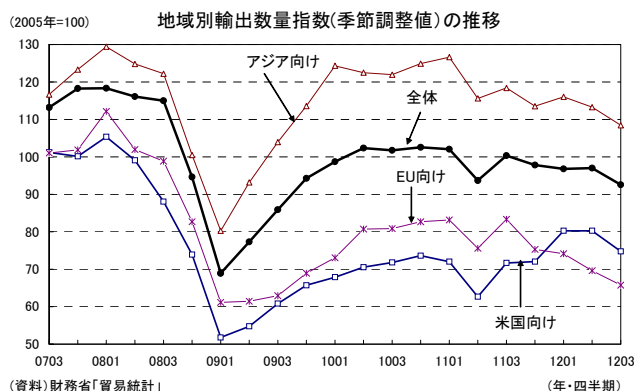
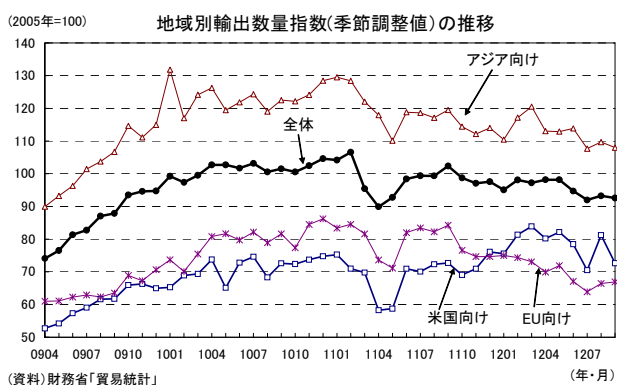


2. 7-9 月期は主要 3 地域向けの輸出が全て減少

9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲0.6%（8月：同12.3%）、EU向けが前年比▲20.6%（8月：同▲19.2%）、アジア向けが前年比▲10.0%（8月：同▲6.3%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲10.6%、EU向けが同0.8%、アジア向けが同▲1.5%、全体では同▲0.7%となった。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲6.9%（4-6月期：同0.0%）、EU向けが前期比▲5.6%（4-6月期：同▲6.1%）、アジア向けが前期比▲4.3%（4-6月期：同▲2.4%）、全体では前期比▲4.6%（4-6月期：同0.2%）となった。4-6月期は欧州、アジア向けが落ち込む中、米国向けは一定の底堅さを維持していたが、7-9月期は主要3地域向けの全てが前期比で大幅なマイナスとなった。

一方、7-9月期の輸入数量指数（季節調整値）は前期比0.9%（4-6月期：同0.9%）と4四半期連続で上昇した。



3. 7-9 月期の外需寄与度は前期比▲0.7%程度のマイナスに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比▲4%台の減少、輸入が前期比ほぼゼロ%の横ばいとなることが見込まれる。この結果、7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.7%（4-6月期は同▲0.1%）となり、成長率を大きく押し下げることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、10/31のweeklyエコノミ

ストレターで7-9月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が大幅なマイナスとなることに加え、民間消費、設備投資が前期比で減少に転じることにより内需による押し上げも期待できないことから、前期比年率▲2%を超えるマイナス成長を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。